

【問 題】

リンドブロムのインクリメンタリズムについて説明せよ。

【解答例】

リンドブロム以前の意思決定に関する研究は、構想しうるすべての代替案を立案し、その中から最適な案を選択するというモデルの開発に偏りがちであった。このようなモデルの根底にある理論を「合理的意思決定理論」という。この理論では、政策立案者は、政策案の選択を規定すべき諸価値を識別し、つぎに、これらの諸価値を実現する政策案として考えられるものをすべて列挙して、各政策案を実施した場合の結果と達成される諸価値を計算し、最後に、諸価値の達成値が最大になると考えられる案を選択しなければならないとする。

リンドブロムは、この合理的意思決定の理論を「総覧的決定モデル」とよんで批判した。彼によれば、人間の認識能力には限界があり、情報も著しく不完全であるから、政策の選択肢およびそれらの結果について完璧に検討することは、多大の時間・労力・資金等のコストを要するし、一元的な価値体系を構成し、すべての価値を単一の尺度で比較衡量することなど、およそ不可能であるとした。

そして、合理的意思決定理論に対して、リンドブロムが提唱した理論が「インクリメンタリズム」である。この理論は、予算編成過程では前年度予算をベースにして、新規の増分についてのみ厳しい査定が行われているという観察結果に基づき、政策立案過程の一般的モデルを構築しようと試みたものである。

インクリメンタリズムによれば、政策立案者の一般的な行動様式は以下のようなものであるとされる。まず、立案を始めるのは、理想の目標に近づくためではなく、現実の差し迫った弊害を除去するためである。第 2 に、政策案の立案にあたっては、所属機関と対象集団の利益の観点からこれを行い、その他の集団利益のことまで考慮に入れようとはしない。第 3 に、目的と手段を峻別せず、初めから両者をワンセットにした政策案を立案する。第 4 に、政策案の探求は、現行業務の実施方法にわずかな修正を加えただけの政策案から検討を始める。第 5 に、政策案の探求は実現可能と思われる 2～3 の選択肢を見出したところでとどめ、この範囲の中から最善と思われるものを選択することで満足する。第 6 に、当面の課題を一挙に解決しようとはせず、政策の修正・変更を繰り返しながら漸進的にこれを解決しようとする。

現状から大きく異なる選択肢は、その結果を確実に予測することが困難で、政治的に受け入れられないことが多い。そのようなことを考えても、現状から少しだけ異なる選択肢の検討に限定する方法が現実的というインクリメンタリズムは、政策立案者の実際の行動様式を忠実に一般化している。特に官僚が政策立案の主導権を握っている状況における政策立案過程を説明するには、インクリメンタ

リズムの理論が妥当するといえよう。しかし、インクリメンタリズムには、規範性がなく、現状維持的・保守的であるという批判を受けることにもなった。

以 上